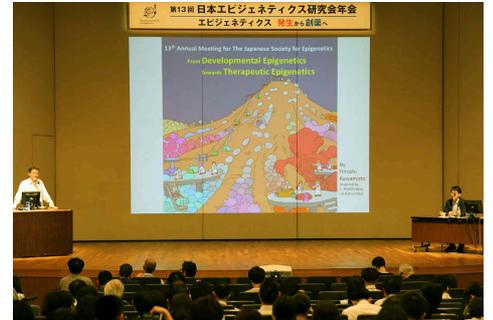




第13回年会「エピジェネティクス：発生から創薬へ」開催

第13回日本エピジェネティクス研究会年会在、5月28日～29日の2日間、神奈川県民ホール・横浜産貿ホールで開催されました。本会は理研シンポジウム、3つの新学術領域研究との共催として、また27社の企業に協賛して頂き、440名の方に参加していただきました。一般講演11題、ショートトーク6題、ポスター発表138題、さらに、奨励賞受賞者3名による受賞講演、次回年会長である近藤豊先生の講演が行われました。



講演会場の神奈川県民ホール

エピジェネティクスの研究は、様々な技術革新やデータの蓄積によって大きく発展するとともに、基礎生物学だけでなく発生生物学や医学の分野まで広がってきました。本年会ではエピジェネティクスがどのように創薬などの応用研究に発展してきたのか、最新の成果を報告し議論を深めるべく開催されました。海外から4名の演者を招き、講演はすべて英語で行われましたが、活発な質疑応答があり、ポスターでも盛んに議論が行われました。

講演者の皆様、参加者の皆様、また、年会の運営をしていただいた組織委員会、古関研究室の皆様、大変ありがとうございました。

奨励賞受賞者の表彰が行われました

本会の賞等選考委員会による厳正な審査の結果、若手研究者の中から鯨井智也さん（東京大学、左）、池田陽子さん（岡山大学、中央）、宅野将平さん（総合研究大学院大学、右）の3名が選ばれ、受賞者講演の前に眞貝洋一代表幹事による表彰が行われました。

おめでとうございます！



幹事会と総会が開かれました

- ▶ 5月28日に幹事会が、また5月29日に総会が行われました。
- ▶ 2020年の年会は、近藤豊幹事（名古屋大学）を年会長として、5月21、22日に名古屋駅前のウインク愛知で開催される予定です。詳細は後日お知らせいたします。
- ▶ 2021年の年会長には、伊藤隆司幹事（九州大学）が選出されました。



懇親会の様子



第13回エピジェネティクス研究会年會を終えて

『エピジェネティクス 発生から創薬へ』をテーマにした第13回年會は横浜にて盛會のうち
に無事終了することができました。今回は、4名の海外からの招待演者を含め、ショートトーク
にも1名の外国人を選考して、講演は全て英語にて行わせていただきました。講演は聞き応えの
あるものばかりで、多くの活発なご討議をいただき、本当にありがとうございました。佐々木先
生による特別講演では、佐々木先生の大学院時代のエピソードも交えて話されて、激励された学
生・若手研究者も多くいたのではと存じます。さらに、140題近くあったポスター発表はいず
れも素晴らしいものでした。また、それぞれのポスターの前で多くの議論が行われているのを目
にしました。今後それぞれの研究がどのように展開され、どのような成果として結実していくの
か、それらを目にすることを今から楽しみにしています。本年會が、参加してくださった皆様の
研究の一助になり、その積み重ねとして日本のエピジェネティクス研究がさらに発展することを
願う次第であります。

最後に、協賛にご同意いただいた企業・財団・学術団体の方々のご厚志、組織委員、座長の先
生方、ご参加いただいた皆様による本年會への貢献、本年會の運営にご尽力いただいた皆様に、
深く感謝いたします。

来年5月に、名古屋で近藤豊先生を年會長して開催される第14回年會で皆様に再會できるこ
とを楽しみしております。

第13回年會長 古関 明彦



情報を求めています！！

研究員・ポスドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレター
を利用して公開してみませんか。年會に関するご意見・ご感想もよろ
しく願いたします。お近くの広報委員に気軽にe-mailください。

(代表) 中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)
木下哲 (tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp)
大川恭行 (yohkawa@bioreg.kyushu-u.ac.jp)
近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)

日本エピジェネティクス研究会事務局

佐賀大学医学部 分子生命科学講座
分子遺伝学・エピジェネティクス分野内
庶務担当幹事：副島英伸
担当：八木ひとみ

住所：〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1
TEL: 0952-34-2262
E-mail: jse-jimukyoku@ml.cc.sags-u.ac.jp

日本エピジェネティクス研究会
令和元年度第1回幹事会 議事要旨

場所：横浜産貿ホール 3F 302 会議室

日時：令和元年5月28日（火）12:00～13:00

出席者：石野史敏、伊藤隆司、岩本和也、牛島俊和、梅澤明弘、浦 聖恵、大川恭行、小布施力史、金井弥栄、木下 哲、木村 宏、胡桃坂仁志、古関明彦、近藤 豊、斉藤典子、佐々木裕之、佐渡 敬、眞貝洋一、副島英伸、中尾光善、中島欽一、仲野 徹、中山潤一、畑田出穂、村上洋太、山田泰広、吉田 稔（27名）

欠席者：油谷浩幸、緒方 勤、角谷徹仁、佐野 浩（委任状）、白髭克彦、立花 誠（委任状）、湯浅保仁（委任状）（7名、うち委任状3名）

議事に先立ち、委任状を含めて定足数（2/3）に達していることが確認され、承認された。

報告事項

1. 平成30年度事業報告

眞貝代表幹事より以下の事が報告された。

- (1) 第12回年会在村上洋太年会長のもと平成30年5月24-25日にかでる2・7（北海道立道民活動センター）で開催された。
- (2) 幹事会が1回（5月24日）、総会が1回（5月25日）開催された。
- (3) 第14回（令和2年）年会長に近藤豊氏（名古屋大学）が選出された。

2. 庶務委員会報告

副島庶務委員長より以下の事が報告された。

平成30年12月31日現在の会員数と会費納入状況

一般会員 405名（会費納入率65%）

学生会員 130名（会費納入率36%）

賛助会員 4社（会費納入率100%）

令和元年5月13日現在

一般会員 441名、学生会員 153名、賛助会員 4社

3. 広報委員会報告

中島広報委員長より以下の事が報告された。

ニューズレターを5報（48号～52号）発刊し、ホームページを26回更新（連絡事項14回、求人情報7回、その他5回）したことが報告された。

4. 令和元（2019）年奨励賞の受賞者の選出について

奨励賞選考委員会牛島委員長より選考経過が報告された。

5. 令和元（2019）年年会参加助成について

眞貝代表幹事より応募者がなかったことが報告された。

6. 第13回（令和元年）年会について

古関年会長より年会の状況について報告がなされた。

- 今年はポスターを作製していないが、作製した方が参加者数の増加に結び付くのではないか。
- 口演は全て英語による発表にした。そのことにより、質問者の減少が懸念されたが、活発な討論が行われている。
- 年会開催にあたり、科学研究費補助金新学術領域研究「配偶子インテグリティの構築（領域代表者：九州大学 林 克彦先生）」、「遺伝子制御の基盤となるクロマチンポテンシャル（領域代表者：東京工業大学 木村 宏先生）」、「染色体オーケストレーションシステム（領域代表者：東京大学 白髭克彦先生）」からの支援があった。

7. 第14回（令和2年）年会について

近藤年会長より JR 名古屋駅近くのウィンクあいちで行うことが報告された。次回年会長講演時に詳細を発表することが報告された。

8. 幹事再任・辞退について

眞貝代表幹事より幹事の任期満了に伴う再任・辞退に関する報告があった。

再任 8 名：伊藤隆司、梅澤明弘、角谷徹仁、金井弥栄、眞貝洋一、中尾光善、
中島欽一、畑田出穂

辞退 1 名：佐野 浩

9. 北陸エピジェネティクス研究会への支援について

眞貝代表幹事より、第5回北陸エピジェネティクス研究会（開催日：平成30年12月4日～5日、開催地：富山大学）に対して、第12回年会のサテライト研究会という位置づけで、今回に限り、第12回年会の剰余金をもって10万円の支援を行ったこと、また、ニュースレター第51号で紹介されたことが報告された。

10. その他

特になし。

協議事項

1. 平成30年度決算について

副島庶務委員長より資料に基づいて説明された。収入は、会員の会費と2018年第12回年会（村上年会長）からの返金からなること、繰越金の額、収支の赤字額が報告された。また、決算の監査が、木下氏と岩本氏によってなされ、適正である旨報告された。審議の上、承認された。

2. 令和元年度の事業計画について

特になし。

3. 令和元年度・令和2年度予算案について

副島庶務委員長より資料に基づいて説明がなされ、承認された。

以下の問題が提起され、議論された。

- 収入は原則として会費納入のみであり、およそ100万円である。
- 毎年赤字が出ているが、年会開催は本研究会の最重要事項なので当面年会補助100万円は継続する。
- 収入の増加に関する方策として、様々な意見が提言された。
 - 1) 他の学会・研究会と比較して、年会費を見直しする。
 - 2) 学生会員の会費はそのまま、一般会員のみ会費を増額する。
- 支出の抑制に関する方策として、様々な意見が提言された。
 - 1) 現在、企業等からの協賛金獲得は困難性を増してきている。よって、年会の会場費を抑制するため、開催場として大学・公共設備を利用すればいいのではないか。
 - 2) 会場費が安いとともに、補助金が出る場合がある。
- 年会参加費は定額と定められているわけではないので、年会長が適宜決めてよいことを確認した。
- これらの問題は「あり方検討委員会（協議事項6参照）」の検討事項となった。

4. 賛助会員について

2019年1月アクティブ・モティフ社から賛助会員の申し出があり、執行部で議論され、研究会会員の研究活動等に価値があると判断し、問題ないと判断したこと、また、同企業の求人案内をHP掲載したことの報告があり、賛助会員に対する対応について議論された。

議論に先立ち、現状において行われている賛助会員特典について以下の説明がなされた。

【現状の賛助会員特典】

- 1) 研究会HPの賛助会員ページに企業名を掲載
- 2) 求人案内等の情報を研究会HPに掲載

現行の賛助会員について、改善すべき意見が提言された。

- 一口1万円は安いので増額を考えてよいのではないか。
- ニュースレターにフライヤーをつけて追加徴収してはどうか。その際、フライヤーの内容は企業の提案をもとに考える。

この件に関しても、「あり方検討委員会（協議事項6参照）」の検討事項となった。

5. 第15回（令和3年）年会会長の選出について

九州大学の伊藤隆司氏が推薦され、受諾された。

6. 年会のあり方等検討委員会の設置について

眞貝代表幹事より同委員会の設置について提言がなされ、承認された。

検討事項

- 研究会の財務状況について
- 年会の開催について
- 関連学会・研究会への支援について
- 賛助会員について

7. 関連研究会の開催支援制度について

他の学会、研究会等の後援については、下記のようにしている（平成29年5月22日幹事会承認）。

「他の学会、研究会等に対しては原則として後援しない。ただし、本研究会ホームページへ開催案内を掲載することについて依頼があった場合は、執行部が問題ないと判断した場合には許可する。」

第5回北陸エピジェネティクス研究会への支援については報告事項として報告されたが、同研究会の今後の継続支援について意見が交わされた。

- 地方でのエピジェネティクス研究の活性化のために、支援の必要性は幹事の間で認識された。
- 支援あるいは後援に対する会則に関して、曖昧な点があることが指摘された。
- 日本エピジェネティクス研究会自体の財政基盤の脆弱性と継続支援との関連性について意見が出された。

今回は同研究会の継続支援に関して、結論は見送られることとなり、あり方検討委員会の検討事項となった。

8. 代表幹事、副代表幹事および各種委員会委員の交代について

眞貝代表幹事より、次期代表幹事、副代表幹事および各種委員会委員の推薦ならびに再任が提案され、審議の後、承認された。また、庶務委員会と広報委員会について、「現行の任期無し、再認可」から「3年任期、再認可」とすることが承認された。新人事は下記の通りである。

代表幹事 (3年任期、連続2期まで可)	中尾光善
副代表幹事 (3年任期、連続2期まで可)	伊藤隆司
庶務委員会 (3年任期、再任可)	副島英伸 (委員長、令和2年5月まで) 畑田出穂 (委員長、令和2年5月から) 岩本和也

広報委員会 (3年任期、再任可)	中山潤一 (委員長) 佐渡 敬 近藤 豊 木下 哲 大川恭行
会計監事 (3年任期、再任不可)	立花 誠 山田泰広
賞等選考委員会 (3年任期、再任可)	令和4年5月まで 牛島俊和 (委員長) 角谷徹仁 浦 聖恵 令和3年5月まで 石野史敏 伊藤隆司 (後任は令和3年5月まで) 仲野 徹

賞等選考委員会については、副代表幹事に任命された伊藤氏の後任を牛島委員長に推薦してもらうこととなった。

庶務委員会の業務引継ぎのため、副島氏が庶務委員長を1年継続し、その後畑田氏に引き継ぐことが承認された。

9. 幹事の再任について

幹事再任規定を満たさなかった白髭克彦氏と吉田 稔氏について、眞貝代表幹事より、両氏の日本エピジェネティクス研究会に対する今までの貢献から、再任が提案された。吉田 稔氏について承認された。白髭克彦氏については、本人の意向を聞いた上で審議することとなった。

10. 名誉会員の選出について

佐々木裕之氏により、名誉会員として佐野 浩氏が推薦され、佐野氏の名誉会員が承認された。

11. 新幹事の選出について

- 新幹事被推薦者8名の氏名、所属、職位、研究分野、推薦理由、会員歴、会員番号、会費納入状況、過去5年の年会参加状況ならびに推薦者人数に基づき審議された。
- 眞貝代表幹事より、今回新たに3名の新幹事の選出が提起され、承認された。
- 無記名投票で新幹事被推薦者の中から3名を選び、獲得票数の上位3名を新幹事候補者とする、3位が同数であった場合、決選投票を行うことが承

認され、投票が行われた。

- 投票の結果、沖 昌也氏、鈴木 拓氏、西野光一郎氏に幹事就任を依頼することとなった。

12. その他

副島庶務委員長より、現行では3年以上会費を納めなかった会員は、審議の上、退会となるが、今後は、「3年以上会費を納めなかった会員は、審議なしで、自動的に退会にする」ように会則を変更したいことが提言された。下記にその理由を記す。

- 学生会員の場合、連絡先不明になる場合が多い。
- 所属変更があった場合、連絡をとることに困難を伴う。
- 事務処理が効率的になる。

審議の上、会則の変更が承認された。

(以上)